

今月のテーマ

國民一人ひとりが地球温暖化について真剣に考える時が来ています

「地球温暖化－3」

京都議定書から10年以上が経過。私たちは、地球温暖化問題にどのように対処していけば良いのでしょうか

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書では、「地球温暖化は間違いなく。このことは、大気や海洋の世界平均温度の上昇、雪氷の広範囲にわたる融解、世界平均海面水位の上昇が観測されていることから今や明白である」とし、「20世紀後半の世界平均温度の上昇のほとんどは、人為起源の温室効果ガスの増加によつてもたらされた可能性が非常に高い」と結論付けました。

京都議定書から10年以上が過ぎ、地球温暖化への対応のタイムリミットが近付いてきました。この問題にどう対処していくべきかを国民一人一人が真剣に考へる時期が来ています。

日本に課せられた削減目標6%（1990年比）に対しても、森林吸収分3.8%、京都メカニズム分1.6%（クリーン開発メカニズム・排出量取引・共同実施）とすでに数値が明確になっています。しかし現状は、1990年の温室効果ガス排出量に比べ、減らすどころか約8%増えているというのが実状です。かなり厳しい状況に追い込まれていることは間違ひありません。

そんな中で、以前取り上げた太陽光、風力、バイオなどの自然エネルギーもさることながら、今ある技術に手を加え、普及させることで大き

ヒートアイランド対策 屋上緑化

住宅、工場などの屋上緑化をすることにより、遮熱効果や保水効果を得て、冷暖房のエネルギーを節約することができます。同様に、建物の外壁を緑化する壁面緑化というものもあります。



な効果を期待できるものがあります。たとえば、以前は捨てていた熱エネルギーを回収し再利用する『サーマルリサイクル技術』。この技術は、今後ますます進化していくと考えられます。また、家庭用の『コードジェネレーションシステム（発電すると同時にその排熱でお湯を暖める）』も、さらに手軽なものが開発されることが期待できます。また、ヒートアイランド対策として、左で紹介する屋上緑化も注目されています。

これらの採用にはある程度のコストがかかりますが、下記のように個人の工夫できることも沢山あります。これからは、教育の中で、地球環境を考えた上で行動という価値観が植えつけられてゆくと思いますが、今すぐにできる身近なことから始めていきたいですね。

地球温暖化を防ぐ様々な工夫

◆ Cool Biz と Warm Biz

夏は、ノーネクタイで体感温度を二度下げることができ、Cool Bizによりひと夏で、160～290万トンの二酸化炭素を削減できる。もちろん冬はWarm Bizで室温20℃に。衣服を着こみ、温かい食事や飲み物で体を冷やさないようになります。

◆エコドライブ

車はガソリンの消費量を意識し、アイドリングを長時間しない、急発進・急加速をしないことを心掛ける。乗合で出かけるようにすればかなり節約できる。また、余分な荷物を載せないようにし、タイヤの空気圧を適正にする。最近の車はエンジンの暖気運転が必要ないので、始動したらすぐに発進する。可能な限り通勤に電車やバスを利用する。



トラン（路面電車）や自転車は利便性も高くエコ対策となる

◆住まいの省エネ

エアコンを省エネにすることはもちろん、改装をする時には壁、天井等の断熱をしっかりと施し、二重窓ガラスにすれば熱を外に逃さなくなり省エネ効果はかなり上がる。また、軒や簾、ブラインドなども断熱効果は大きい。他にも、夏の暑い日は、夕方に打ち水をする。家族でのお風呂の使用時間を合わせる。さらに、水道の蛇口に節水コマを取り付けることで通常のものよりも、一分間で最大6リットルの節水となる。こまめな節水で二酸化炭素排出も大きく削減できる。



↑ 蛍光灯の街路灯（ケルン）

◆電気の省エネ

白熱灯は蛍光灯に変え、冷蔵庫やエアコンは省エネラベルで性能を比較して購入すると良い。必要なない電化製品の待機電力も無駄なので、使わない時はコンセントを抜いておく。

2008 SEPTEMBER

社会問題・環境問題
に目を向けよう！

9月といえば「秋分」です。地球温暖化やヒートアイランドの影響で街では季節を感じられなくなりつつあります。地球規模の取り組みで、忘れ去られそうな季節感を次世代につなげられるよう、意識を高めなくてはならないですね。

2008年9月発行
発行：前田由紀夫
編集：（株）バブルス
株式会社円昭 HP
<http://www.enshow.com>



知識の泉

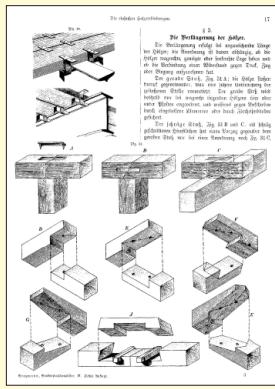
今号のテーマ

“木の可能性（継ぎ手・仕口）”

住宅の構造材には、木、鉄、コンクリート等がある。それらの中で一番古くから用いられているものが木材である。森林から木を伐採し、その木を打ち割り製材し、木と木を組み合わせ（継ぎ手、仕口）、構造部分を構成する。

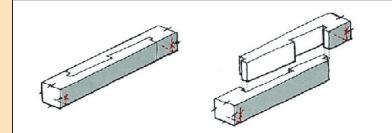
日本では、縄文時代中期（約4000年前）の桜町遺跡（富山県小矢部市）から木組みの工法で高床式の建物が建てられていたことが確認された。これは、中国浙江省の長江沿いにある河姆渡（かぼと）遺跡から出土した約7000年前の建物の建築技法と一致していることから、木組み工法や高床式の構造はすでにその当時からあったものだということになる。つまり、現在の床を高くして生活をしている建築様式のルーツは縄文時代であるということになる。もちろん一般的には竪穴式や掘建て式構造のものが多くあるが、木をうまく組み合わせる技術は「木」自身が教えてく

れるように、古くから存在するのだ。この、木が木の組み合わせ方法を教えてくれると、木材の植物的な特性を活かすと、その組み方は世界各国同じような形になるということで説明がつく。18世紀のドイツの木材の書籍に、継ぎ手、仕口の方法があるが日本のものとはとんど変わらない手法が記されている。継ぎ手とは、長い木材を必要とするところで、一本の長さでは足りない場合、二本をつなぎ合わせる技術である。圧縮や引っ張りに耐えられるよう適材適所、継ぎ手は数多くある。

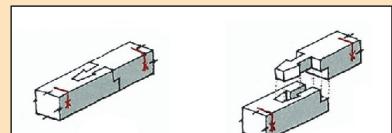


ドイツの木材の書籍

継ぎ手の手法



追掛け大柱継（おいかげだいせんつぎ）



鎌継（かまつぎ）

仕口とは二つの材を、ある角度で接合することであり、土台と柱のつなぎ目や、梁と桁のつなぎ目などに使われる。使われる木の個性を見ぬき、うまく組み合わせないと建物はバランスを失い、強度をなくしてしまう。長い時間をかけて匠の技が試される場所であるが、継ぎ手も仕口も建物の構造であるが故に覆い隠され、一般的にはその技を見ることはできない。

コ・ラ・ム

住宅瑕疵担保履行法（国土交通省）

新築住宅の売主等は、住宅の品質確保の促進等に関する法律に基づき、住宅の主要構造部分の瑕疵について、10年間の瑕疵担保責任を負うこととされています。しかし、構造計算書偽装問題を契機に、売主等が瑕疵担保責任を十分に果たすことができない場合、住宅購入者等が極めて不安定な状態にかれることが明らかになりました。このため、住宅購入者等の利益の保護を図るために、第166回通常国会において、「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律（平成19年法律第66号）（住宅瑕疵担保履行法）」が成立・公布されました。また、住宅瑕疵担保責任保険法人の指定や特別紛争処理体制の整備については平成20年4月1日に施行され、新築住宅の売主等に対しての瑕疵担保責任を履行するための資力確保の義務付けについては平成21年10月1日に施行されます。これから住宅を建築、取得しようとする人は必ずチェックをしてください！ <http://www.mlit.go.jp/> [国土交通省 住宅瑕疵担保履行法]

お勧めの一冊

21世紀の国富論

著者：原 丈人

出版社：平凡社 ¥1,470（税込）



著者はシリコンバレーを代表する世界的なベンチャーキャピタリストの一人です。しかしそこに行きつくまでの経歴がじつに興味深く、大学では法学を学び、アメリカに渡り考古学を研究、スタンフォード大学では経営学大学院を卒業するなどまさにマルチ才人間なのです。アメリカに拠点を置く氏が、この先の見えない時代に「今、日本の経済・産業・社会はチャンスを迎えている」と語るのです。日本は戦後モノづくりで発展し、アメリカ経済に追随してきました。いまや対アメリカの輸出量を超え、中国やアジアの国々の輸出量が増えています。また、日本の特徴だったモノづくりも今やアジア諸国に追いつかれようとしています。我々が一步を踏み出せば、日本は世界になくてはならない豊かな国になるということが納得される一冊です。日本の将来を憂うビジネスパーソン必読の書です。

COOLBIZ

チーム・マイナス 6% <http://www.team-6.jp/>

株式会社 円昭（enshow corporation）では地球温暖化防止のためCO₂排出量削減に取り組む「チーム・マイナス6%」に参加しています。京都議定書では、地球温暖化を防止するために、2012年までに1990年比6%の温室効果ガス削減を約束しています。しかし2005年度における日本の温室効果ガスの排出量は、7.8%上回っており、温暖化対策をより強化する必要があります。微力ですが、将来の地球のためにできることから行動することを宣言します。

株式会社 円昭

〒466-0031

名古屋市昭和区紅梅町3-4-2

TEL : 052-841-2701

FAX : 052-841-4301

mail@enshow.com

<http://www.enshow.com>